

令和4年度旭川未来会議2030若者分野 第1回分野別会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年7月21日(木) 午後6時30分から午後8時30分まで
 - 2 開催場所 ICTパーク 1階 トレーニングジム(旭川市3条通8丁目 神田館)
 - 3 出席者(参加者) 秋保里衣, 池田七夕梨, 加納光, 合原翔太, 佐藤有沙, 高松治斗, 武田美紀, 沼澤雪菜, 山田彩華, 吉見季里子
※敬称略, 五十音順
 - 4 出席者(市側) (運営事務局)
地域振興部 三宅部長, 八木次長
地域振興課 佐瀬主幹, 南條課長補佐, 菊地課長補佐, 中村主査, 新妻(統括事務局ほか)
総合政策部広報広聴課広聴係 山本係長, 吉岡
総合政策部政策調整課 秋保主査
 - 5 会議の公開・非公開 公開
 - 6 傍聴者 2名(報道機関: 2名)
 - 7 意見交換等
 - (1) 地域おこし協力隊より活動内容の報告
参加者同士によるグループワークに先立ち, グループワークの参考とするため, 移住及び定住の促進, 中心市街地活性化等の活動を行っている旭川市地域おこし協力隊の隊員(2名)から, 主な活動内容について, 報告を受けた。
 - (2) グループワーク
 - ・ 抽選により, 参加者を3つのグループに分け, グループワークを行った。
 - ・ 各グループごとに, SWOT分析の手法により, 旭川市の「強み」, 「弱み」, 「機会」, 「脅威」の4項目について考えられるものを挙げた後, それらの内容をもとに, 「10年後(2030年)の旭川市のあるべき姿」などについて, 意見をまとめた。
 - ・ 各グループごとの意見については, おおむね次のとおり
- ア グループA
- ① SWOT分析
 - ・ **【強み】**
「自然豊か」, 「自然がある」, 「北海道の中心にあり, 割とどこへでも行きやすい」, 「新しいもの好き 珍しいもの好き市民性」, 「ほどよい スーパー 自然 空港」, 「食べ物がお

いしい」、「空港がある」、「駅がきれい」、「ほどよく都会 ほどよく田舎」、「川」、「北海道の真ん中」、「動物園がある」、「周りに観光地が多い」、「四季を感じられる」、「割と平和」、「医療資源が豊富」、「地震などの災害が少ない、風が弱い」、「ものづくりのクオリティが高い」、「暮らしやすい」、「大学が3つ」、「豊かな自然が身近にある（大雪山、石狩川、パウダースノーなど）」、「タクシーの運転手が面白い人ばかり」、「ちょうどよい隣人関係」、「元気な高齢者が多い」

・ **【弱み】**

「若者が旭川に残らない」、「街に人がいない」、「娯楽施設が少ない」、「平均所得が低い（らしい）」、「交通手段（バス少ない・終電早すぎ・買物公園歩くしかない）」、「いじめ事件のイメージが悪い」、「学生～20代 遊ぶところがない」、「車がなければとても不便」、「発信力が弱い」、「買物公園を活かしきれていない（駅から歩くとけっこう遠い）」、「雪 寒さ」、「子育てや創業支援 近隣町村に比べて弱い」、「路面（道路）ガタガタ」、「寒い」、「若者にとって魅力あるスポットが少ない雰囲気」

・ **【機会】**

「旭大の公立化」、「コロナで都市部を離れる人が増加」、「スケートパークをつくってほしい」、「DXの流れ・風潮」、「コロナ禍（リモートワークとか都市でなくてもよいという考え）」、「自然を生かしたこと」、「サウナブーム」、「健康志向の高まり（人生100年時代）」、「買物公園 もっと若い人を増やす」、「買物公園に新たな商業施設がオープン」、「新市長が精力的に活動されている」、「スケボー・スノボ・オリンピック効果」、「SDGsの風潮」、「今津市長になったこと」、「雪を活かす」、「街中 次々と閉店 チャンス」、「諸々の事件を機に各機関の透明性がアップしそう」、「動物園と水族館を分ける」

・ **【脅威】**

「出生率の減少（全国的に）」、「買物公園静か」、「土地があるならテーマパークをつくる」、「高齢化（産業の衰退・後継者難など）」、「若者が離れていく」、「気候変動で北海道も夏暑く」、「人口の減少 過疎化」、「いじめ事件のイメージ」、「独特の商習慣」、「コロナで特にリスクの高い人の交流減」、「未婚の人の増加」、「大型商業施設の進出」、「コロナで人流が減少」、「動物園以外なし そのままみんな富良野に行く」、「駅の横に大型商業施設がある」、「自粛続きで多くの店が閉店」

② まとめ

・ **【10年後（2030年）の旭川市のあるべき姿】**

「若者が休日を楽しめる街 ～守りの姿勢から攻めの姿勢へ～」

・ **【実現のために】**

（やらなければならないこと・変えなければならないこと・守っていかなければならないこと など）

「若者自身に考えてもらう機会を作る。給料を上げる。財産である自然を守る。若者の権利を守る。」

（必要なこと・必要な施設・必要なイベント など）

「1人で気軽に行って交流できる場所、夜景スポット、屋外フェス、スケートパーク、夜に堂々と行ける場所、若者が意見を言える場所」

（若者にできること）

「市に対して意見やアイデアを出す。文句だけでなく行動する。」

イ グループB

① SWOT分析

・ 【強み】

「アグレッシブな高齢者の方々」, 「家具の生産◎ 企業多い」, 「第2の都市（北海道）」, 「人口30万人」, 「新規参入しやすい 企業 転入者」, 「卒業後の選択肢 多い」, 「課題発見 早い」

・ 【弱み】

「HPの更新が遅い」, 「前例主義 多い」, 「土地の有効活用ができていない」, 「観光地としてメインとなるものが少ない」, 「問題解決に時間がかかる」, 「交通の便が悪い」, 「広報が弱い」

・ 【機会】

「自然を活かした観光資源の活用」, 「土地が広い」, 「観光客の増加」

・ 【脅威】

「青年の流出」, 「建物の老朽化」, 「少子高齢化 後継者の不足」

② まとめ

・ 【10年後（2030年）の旭川市のあるべき姿】

「自然×観光×IT」

・ 【実現のために】

（やらなければならないこと・変えなければならないこと・守っていかなければならないこと など）

「旭川」としてのPR強化, 青年流出を防ぐ（ITの強化）

（必要なこと・必要な施設・必要なイベント など）

「主要都市からの航空便の増加, 協力隊を増やす, 学校と企業の連携, インフルエンサーを増やす」

（若者にできること）

「情報の発信, 旭川に興味を持つ」

ウ グループC

① SWOT分析

・ 【強み】

「産業がある」, 「天災が少ない」, 「旭山動物園がある」, 「人とのつながり 人がいい」, 「自然都市」, 「買物公園周辺 飲食店が多くなる」, 「空港 就航率」, 「医療・福祉都市」, 「親子・子ども向けイベント多い」, 「ポテンシャル 余白がある」, 「オープンマインド」

・ 【弱み】

「素材を活かしきれていない」, 「旭川の人が外に出ない インドア 街に人がいない」, 「かわいいカフェ ネオ居酒屋 ない」, 「知名度が低い」, 「交通の便が不便 車がないと無理」, 「買物公園 若者・親子が楽しめる場少ない」, 「若者が自分のまちに可能性を感じていない」, 「旭川のイメージが悪い」, 「AIR便少ない 千歳に行ってしまう LCCがない」,

「多種多様な業種があるからシフトしづらい」、「旭川に自信を持っていない人が多い」、
「独身若者 遊べる場所がない」、「産業基盤になっていない」

・ **【機会】**

「買物公園50周年 市制100年」、「ユネスコデザイン都市」、「北海道第2都市」、「何か変えたいと思っている人が多い」

・ **【脅威】**

「人口減少 少子高齢化」、「市外・国外の資本の流入」、「公共交通機関がやや不便」、「東京・大阪以外からのアクセスが不便」、「若者流出」

② まとめ

・ **【10年後（2030年）の旭川市のあるべき姿】**

「すべての人が自由に表現でき、つながりあえるまち」

・ **【実現のために】**

（やらなければならないこと・変えなければならないこと・守っていかなければならないこと など）

「交通の便を良くして、来やすいまちに」

（必要なこと・必要な施設・必要なイベント など）

「若者が集まる場」

（若者にできること）

「SNSで発信」

(3) 発表等

- ・ 各グループごとに、(2)の結果について発表を行った後、その発表内容についてそれぞれ感想を出し合った。
- ・ 発表及び感想の主な内容については、おおむね次のとおり

ア グループA

① 発表

【10年後（2030年）の旭川市のあるべき姿】

- ・ 若者が求めていることや感じていることは、やはり、遊ぶ場所がないということであると意見が合致した。
- ・ 「若者が休日を楽しめる街」になれば、周辺地域からも人が流れてくるということにもつながるのではないか。
- ・ また、今の旭川市には、若干、「このままで良いのではないか」という姿勢があるのではないかという意見も出たところであり、これからは、そのような守りの姿勢ではなく、攻めの姿勢でいこうという結論に至った。

【実現のために】

- ・ 実現のためにすべきことは、「若者自身で考えてもらう機会を作る。」、「給料を上げる。」、「財産である自然を守る。」、「若者の権利を守る。」という4つにまとめた。
- ・ 例えば、「このようなものがない」などの不満を言うだけではなく、若者自身がやりたいと考え、若者自身が意見を言い、変えていくことが必要である。

- ・ そのためには、若者が意見を言うための権利を守り、若者自身に考えてもらう機会を作るのが大事なのではないかと考えた。
- ・ そして、やはり遊ぶためにはお金がかかるので、給料を上げるという意見も出た。
- ・ また、旭川の強みとして自然というものがあるので、その自然を守りつつ、楽しめる街につなげていければいいのではないかとという意見も出た。
- ・ 必要なこと、必要な施設、必要なイベントについて、「1人で気軽に行って交流できる場所」、「夜景スポット」、「屋外フェス」、「スケートパーク」、「夜に堂々と行けるところ」、「若者が意見をいえる場所」にまとめた。
- ・ 若者にできることは、意見やアイデアを出していくことであり、文句を言うだけではなく、行動していくことが大事だと考えた。

② グループBからの感想

- ・ 若者が遊ぶ場所など、若者からの視点で考えるということについては、なるほどと思ったところであり、共感できた。

イ グループB

① 発表

【10年後（2030年）の旭川市のあるべき姿】

- ・ 「強み」、「弱み」、「機会」、「脅威」を全て解決したいと考えた。
- ・ 「自然×観光×IT」について、まず、グループ内で、旭川の自然がすごく好きだという意見が出たところであり、「強み」として挙げた。
- ・ 観光については、旭川をメインに来ることはほぼない。インバウンドも国内の観光客もそうだが、旭川は単なる通り道になってしまっている。
- ・ そこで、観光産業としても自然産業としても、旭川としてのPR強化を行い、北海道の第2の都市である旭川が、とても魅力的なまちであるということを伝えていければ良いと考えている。
- ・ ITの強化については、青年の流出を防ぐということもある。若者は、新しいものの好きであり、若い人たちが、自分たちでやりたいことというのは、新しいものをどんどんアップデートしていくということと紐付けられていると考える。
- ・ 旭川にはICTパークができたり、永山にパソコン関連のショップがオープンするなど、ITに関しては盛り上がっていると思う。

【実現のために】

- ・ ITに限ったことではないが、学校と企業とが連携し、学生たちと一緒に交流をして、観光など、いろいろな産業の仕事を学生たちに知ってもらうということも必要なことだと考える。
- ・ 観光にかかわり、主要都市からの航空便の増加については、旭川から海外に行くことができる便や、例えば、福岡など地方の主要都市に行くことができる便など、現在、運航していない便なども含めて強化を行い、旭川が栄えた後も多くの人に来るような流動性という面にも着目して、挙げたところである。
- ・ 地域おこし協力隊については、現在、東川の約50人に対して、旭川は2人であり、圧倒的に数が足りないので、協力隊の数を増やして、旭川の魅力をより多く伝えられたら良いと

考えた。

- ・ インフルエンサーを増やすことについて、現在、旭川のมาสコットキャラクターはあさっぴーだが、これに加え、VTuberをつくる。今、いろいろなVTuberが出ているが、旭川にもつくっていく。これもITに関連してくるが、このような注目度の高い、新しいものを入れていくということが大事だと考えた。
- ・ 若者にできることとしては、情報の発信がある。情報を発信しながら、旭川にはこういうところがあるとか、旭川にも意外と、札幌より良いところはたくさんあるというところを掲げて発信していきたいと考えている。
- ・ 旭川に興味を持つということについては、私もそうだが、なぜ旭川に住んでいるのかと聞かれたときに、すぐに答えられない。地元だったからとしか言いようがない状況である。だが、逆に、若者が旭川に興味を持って、旭川の魅力を伝えられれば、地域おこし協力隊のように、旭川に転入してくる方が増えると考えます。
- ・ 実は、おもしろいことに、以上のことは全てつながっていて、旭川に興味を持って来てみようと思ったら、航空便が取れている。そして、その旭川では、ITが盛んであるし、観光も盛んであるということで、全てに紐付いている。
- ・ 以上のことから、旭川に関しては、10年後を目指したときに、この3つに要点を置いて、このようなスローガンを掲げていければいいのではないかと思います。

② グループCからの感想

- ・ 地方都市だからこそ、ITを強化することに価値があると思う。ITを強化していくことにより、いろいろな可能性も広がっていくと思うので、ITという視点を取り入れていくことについてはおもしろいと思った。
- ・ 自然という旭川の良さを守りながら、新しいことに挑戦していくという考え方に可能性を感じた。

ウ グループC

① 発表

【10年後（2030年）の旭川市のあるべき姿】

- ・ 「すべての人が自由に表現でき、つながりあえるまち」ということをコンセプトにしたと考えた。

【実現のために】

- ・ その実現のために、「交通の便を良くして、来やすいまちに」ということを挙げた。例えば、高校生などは車の運転ができないので、どうしても行ける範囲が少なくなってしまう。主にバスなどを利用すると思うが、本数が少なければ来れないということもある。
- ・ また、逆に、年配の方が、車の運転が不安になり、車を手放した場合、買物などに行くときに必要なのは、やはりバスやタクシーになるが、タクシーについても、燃料費の影響などにより初乗り料金が上がったりしている。
- ・ 東京や札幌になぜ人が来るのかというのは、やはり、地下歩行空間や地下鉄があり、そこに行くための交通がしっかりしているということがあると思う。旭川もやはりその辺りを強化していけば、来やすいまちになるのではないかと考えた。
- ・ 若者が集まることができる場所が欲しいという意見も多く挙がったところであり、現状

では、独身の方が行けるような場所や遊べる場所がないと感じている。例えば、ライブやイベントなどは、札幌ではあっても、旭川ではないことがよくある。

- そのための場所を新たにつくるのではなくて、今、使われていない土地や場所などをうまく利用して、できるだけ低コストでライブなどを開催することができれば、大物なども呼ぶこともできて、かつ、旭川に来たことがない人が来るきっかけづくりにもなるかと考えている。
 - そのためにできることといえばやはり、SNSで発信するということがある。インターネットを生かし、誰もが気軽に見ることができたり、発信できる場所がSNSだと思っている。
 - 例えば、あるライブに参加するために旭川に初めて来た人が、旭川で食事をした場合など、その人が、帰った後に、旭川がすごくいいまちだったということを「ハッシュタグ旭川」などと付けて発信すると、そのライブに興味がある人たちが見たときに、旭川に行ってみようかというように拡大していくと思う。そのような初見の人が見やすいきっかけがSNSなので、SNSで盛り上げるとなると、やはり、若者に盛り上げてもらうということも大事であると思う。
 - 「すべての人が自由に表現でき、つながり合えるまち」ということにつながっていくのだが、SNSで、同じ趣味を持った人たちが意気投合して、仲良くなって集まる。そのとき、旭川ではどこに集まるという話になったときに、気軽集える場所を利用する。
 - そのためには、やはり交通の便をよくしなければ、気軽に来ようということにならないと思う。その辺りの整理をしていくことによって、すべての人が自由に表現でき、つながりあえるまちになっていくという結論が出た。
- ② グループAからの感想
- 若者が遊べる場所が少ないと思っているということは、同じだと感じた。
 - SNSをやっている若者は多いので、そこを強化して、SNSでもっと発信していければ良いと思った。